
静南高校バスケットボール部

鳴海

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

静南高校バスケットボール部

【NZコード】

N6440Y

【作者名】

鳴海

【あらすじ】

静南高校で出会った朝倉隼人と村沢薫。終生のライバルと呼ばれ、日本バスケ界を大きく動かす2人が辿ったストーリーとは…。

ストーリーはオリジナルですが、若干スラムダンクと内容が被ります。

Episode 1 バスケットボール

静南高校

「うおっ、でけえ…」

「俺たちと同じ1年か？」

埼玉県の静南高校。ここで入学式を終え、1人の新入生が注目を集めていた。

朝倉隼人

中学まで北海道のバスケ部に在籍していたが、父親の仕事の都合により埼玉に引っ越ししてきた。

朝倉（バスケ部あるよな…）

朝倉が掲示板の前で立ち止まる。

“バスケ部、王者東王に完敗。またもや八強の壁破れず”

朝倉「おっ、バスケ部か。しかもハ強つて結構強いのか？」

村沢「強いよ」

背後から声。朝倉が振り返る。そこには短髪で端整な顔立ちをした長身の男が立っていた。

村沢「キヤプテンでセンターを務める一階堂さん、精密機械のようなシュー・ティングを誇る如月さん、スピードスターと呼ばれる金村さん。この3人は全国でもトップクラスの実力なんだけど、控えの選手層が薄いのがベスト8に甘んじている原因さ」

朝倉「ええっと…」

村沢「ああ、すまない。5組の村沢薰つていうんだ。もしかして埼玉出身じゃないのか？」

朝倉「2組の朝倉隼人だ。中学まで北海道にいたんだけど、親の都合で埼玉に來たんだ。村沢くんはどうしてこの学校に？」

村沢「薰でいいよ。一階堂さんは中学の頃の先輩でね、スカウトされて來たんだ。バスケ部に入るつもりなら、一緒に体育館に行こうぜ」

朝倉「ああ、分かった。これからよろしくな、薰。俺は隼人でいいよ」

村沢「分かった。よろしく、隼人」

Episode 2 入部

体育館に向かつて歩く朝倉と村沢。大男が並んで歩くので、反対方向から来る新入生は道をあけるように避けてしまう。

田中「隼人くん！」

背後から何者かが朝倉の肩を叩く。朝倉と村沢が振り向くと、ポーテールの女子生徒が立っていた。

田中「久しぶりね」

朝倉「あっ！お前、もしかして保奈美か！？」

田中「うん。小学校の卒業式以来ね」

村沢「隼人、この美人さんは？」

朝倉「ああ、俺の幼なじみの保奈美だ。そつか、確か中学から埼玉に行くつて話だつたな」

田中「ふふつ、入学式で隼人くんを見た時はびっくりしちゃった。けど昔と変わらず大きいからすぐ分かつちゃったよ」

村沢「村沢薰です。よろしく、田中さん」

田中「あつ、田中保奈美です。よろしくお願ひします」

朝倉「悪いな、保奈美。俺たち、これから体育館に行くんだ。話はまた明日な」

田中「そう言つと思つた。バスケ部に入部するんでしょう？じゃあ、私も一緒に行く

朝倉「は？」

田中の言葉が理解できない朝倉。

田中「私、バスケ部のマネージャーになるから」

朝倉「…は？」

田中「ささつ、早く体育館に行こいつよ。先輩たちに怒られちゃうよ」

朝倉「お、おい…！待てって…！」

朝倉と村沢は田中に押されて体育館に向かった。そして、3人は体育館にやつて来た。もつほんどの新入部員が集まっている。

朝倉「もう結構集まっているみたいだな」

村沢「ああ、いい雰囲気だ」

田中「ふふふ、楽しみだね」

そこにキャプテンの一階堂、副キャプテンの相川がやつて來た。

一階堂「おう、一階堂。遅かつたじゃないか。よく來てくれた」

相川「久しぶりだな、村沢」

村沢「キャプテン、相川さん、お久しぶりです。またお世話になります」

朝倉と田中は一階堂を見て、驚きを隠せない。

朝倉（で、でけえ…。2回はあるんじやねえか…）

一階堂「ん？お前も新入生か？身長は村沢よりあるが…。中学はどう出身だ？」

朝倉「は、はー。北海道の花隈中学出身ですー。これからがんばってお
願いしますー。」

一階堂「ん、期待してるぞ」

一階堂の視線が田中に移る。

一階堂「村沢、この娘は？」

村沢「朝倉の幼なじみです。マネージャー希望ですって」

田中さんは、初めまして！田中優奈美です。よろしくお願いします！」

一
留堂が手を叩く。

一列に並ぶ新入部員たち。前には一階堂、相川が立っている。

「一階堂」「キャプテンの一階堂剛士だ。まずははじめに会っておぐ。ウチは本気で全国制覇を田舎している。半端な者はこりらん。しつかりついてきてくれ」

相川「副キャプテンの相川です。全国に行くには君たちの力が必要だ。これからよろしく頼むよ」

一階堂「じゃあまずはお前たちの力を見ておきたい。そこで俺たちレギュラーとお前たち新入部員でゲームをしようと思つ。各自ストレッチをし、ゲームに出る者はビブスを受け取るよ」

相川「田中さん、ここに名前書いてる人にビブスを配つてくれるかい? レギュラーは赤、新入部員は緑で」

田中「はい!」

各自ストレッチを終え、田中からビブスが配られる。

田中「はい、隼人くんに村沢くん」

村沢「ありがとうございます」

朝倉「え?俺、ゲームに出るの?」

田中「うん。頑張ってね」

朝倉「あ、ああ…」

村沢「まさかいきなり隼人と一緒にプレーできるとはね」

朝倉「そうだな。よろしく頼むな、薰」

同じゲームに出る他の1年生も集まつた。

原口「僕は原口亮介。これからよろしく頼むよ」

大栄「大栄圭一です。よろしく

若菜「若菜伊織。これから3年間、頑張ります」

朝倉「あつ、俺は朝倉隼人。やるからには絶対勝とうな

村沢「村沢薰です。よろしく」

大栄「知つてゐるよ、有名人」

若菜「まさか中学MVPの人間と同じ学校になるとはな」

朝倉「ちゅ、中学MVP！？」

朝倉が村沢に目を向ける。微笑む村沢。

朝倉（中学MVP…。そんなすごい奴だつたのか…）

ピ―――――！

「始めます！」

両軍メンバーが顔を合わせる。一階堂がセンターサークルに入った。

村沢「隼人、君がいきなよ」

朝倉「え？でも…」

村沢「いいからいいから。君は俺よりでかいし、実力を見てみたいんだ」

朝倉「…分かつた」

朝倉もセンターサークルに入る。他の8人がサークルを囲つた。

二階堂「朝倉、遠慮はいらん。全力でかかつて来い」

朝倉「…はい！」

Episode 3 激突！レギュラー VS 新入生

審判がボールをトス。一階堂と朝倉が跳んだ。

朝倉「おつ…！」

卷之三

村沢

周囲が驚く。

ଶ୍ରୀମଦ୍ଭଗବତ

「一」

バ
シ
イ
!

ジャンプボールは二階堂が僅かに競り勝ち、如月がボールを拾つた。
レギュラーチームのボールで試合開始。

如月「あの1年、なんてジャンプしゃがる…」

二階堂（朝倉隼人か？）

赤ビブス

4	・二階堂剛士（C）	/ 3年 / 197cm
5	・相川修一（SF）	/ 3年 / 177cm
6	・金村徹平（PG）	/ 2年 / 167cm
7	・如月慧（SG）	/ 3年 / 184cm
8	・塚間健（PF）	/ 3年 / 184cm

緑ビブス

4	・村沢薰（PF）	/ 1年 / 188cm
5	・大栄圭一（PG）	/ 1年 / 170cm
6	・原口亮介（SG）	/ 1年 / 176cm
7	・若菜伊織（SF）	/ 1年 / 178cm
8	・朝倉隼人（C）	/ 1年 / 190cm

ボールは如月から金村へ。村沢が朝倉に声をかける。

村沢「驚いたよ。すごいジャンプ力だな」

朝倉「いや、大したことないよ。それよりディフェンスだぞ」

村沢「ああ」
(隼人、彼となら本当に…)

金村がゆっくりとボールをついている。目の前に立つのは大栄。

大栄（金村さん…。全国でもトップクラスのPG…）
金村「行くぜ、1年」

金村、カットイン！大栄をあつさり抜いた。

大栄（は、速すぎ……！）

氣がついたらゴール下。朝倉が前に出でくる。

スッ

金村、フリーの一階堂へバス。一階堂は冷静にシューートを放つ。

バス！

「おおおおお！金村！」

「キャプテン！ナイツシュー！」

バチン！

静かに手を叩く一階堂と金村。そして、ディフェンスに入る。

「階堂「よーーーーーーーー。ティーフハンスー。」

朝倉がボールを拾う。

大榮「ご、ごめん…」

村沢「ドンマイ。次はオフェンスだ」

1年チームの攻撃。大栄がボールを運ぶ。

金村「来いや、一年」

大栄（朝倉でいくか？いや、まさはやつぱり…）

大栄、ハイポスト付近へバス。ボールは村沢に渡つた。

「村沢！」

村沢がボールを持った瞬間、レギュラーチームの目つきが変わった。

如月（村沢）

一階堂（成長したところを見せてみる、村沢）

村沢、ドライブ！」さうもあつさり塚間を抜いた。

塚間（え…！？）

朝倉「…………！」

相川がヘルプに入る。村沢はこれも抜いてショートを放った。

ザシュー！

「村沢！いきなり決めたぞ！」

「相川さんと塚間さんを相手に！」

如月「一階堂、お前の言つてた通りだ。本物だな、奴は」「

朝倉は村沢のプレーを見て鳥肌が立っていた。

朝倉（薰…。これが中学MVPの実力…。こいつと3年間、一緒の学校でプレーできるなんて…！）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6440y/>

静南高校バスケットボール部

2011年11月21日16時18分発行